

生徒たちもフランス語で歓迎 駐日フランス大使が 高校に来校

5月19日にクリスチャン・マセ駐日フランス大使、フィリップ・ジャンヴィエ在京都フランス総領事、ベルトラン・フォル文化参事官、カトリーヌ・ドロセフスキー大学担当官、ジョゼ＝マリ・コルテス アリانسフランス愛知フランス協会館長が高校に来校されました。

当日は校門にフランス国旗と校旗を並べて掲げ、栄光館の階段でグリークラブが歓迎の歌を歌ってお出迎え。またフランス語を履修する高校3年生の神谷優さんと溝口晴佳さん、8月からフランスに留学する高校2年生の河田理紗子さんが歓迎のご挨拶を、昨年度フランス語

コンクールで優勝した大学1年生の近藤初音さんが詩を朗読。それぞれのフランス語の能力の高さに、大使をはじめ皆様方から褒めをいただきました。

その後の対談でも、あらためて大使から本校のフランス語教育に対する感謝とレベルの高さについてお話があり「フランス語は英語に繼

いで世界各国で使用されている言葉。より一層教育を充実させてほしい。大使館としても可能な限り協力します」というお言葉もいただき、大変充実した交流となりました。



マレーシアへ机やイスを寄贈する際にご尽力いただいた サイモン・リー先生が来校し、生徒たちと交流

韓国人でありながらマレーシアに移り住み、教会の牧師をしながら小学校の校長もされていらっしゃる国際飢餓対策機構のサイモン・リー先生。先生は学院の生徒たちが使用していた机とイスをマレーシア・コナキタバルの学校へお送りした際に現地で仲介をしてくださった方です。去る2月27日、リー先生が寄贈した机やイスの現状報告と生徒たちとの交流のために高校に来られ、教職員と生徒一同で歓迎いたしました。

リー先生は高校1年生に向けてワークショップを行い、家庭科の授業も見学されました。先生は現在のマレーシアについて、極度の貧困地域があること、またそうした状況でも笑顔が

増えてきていることなどをお話され、生徒たちはあらためてそのような地で学院の机やイスが使われていることを知りました。最後は高校の生徒会長、副会長、宗教常任委員と旧中学生徒会の代表7人が一緒に礼拝を捧げ、韓国語で賛美し、先生と祈りの時を過ごしお別れをいたしました。

「この学院も設立された時、アメリカの教会からの多額の献金があって、場所や校舎はすべて無償で備えられました。だからこそ今の金城学院ができる『愛の業』を今後も続けていきたいと思えます」と話す高校宗教主事の沖崎学先生。いつの日か、机とイスを

受け取った学校が金城と同じように愛の業を行い、やがて全世界にその愛が広がっていく。そんな大きなビジョンを描きながら、高校では今後もさまざまな活動を行う予定です。



ことばの芸術や紙切りに感動 恒例の国語科鑑賞会を開催

3月12日に中学校では国語科鑑賞会を開催。全校生徒が参加し、落語を鑑賞しました。

この鑑賞会は「古典芸能や伝統芸能に触れて、感動を味わってもらいたい」と毎年行われている行事で、これまでに歌舞伎や能楽などの鑑賞も行われました。今回は校内講堂の舞台上「高座」「めくり」「木戸」を設けて寄席の雰囲気再現。春風亭鹿の子師匠、三遊亭円馬師匠、柳家喬太郎師匠の落語と林家二楽師匠の紙切りを楽しみました。

紙切りでは生徒が「東京スカイツリー」や

「千手観音」などをリクエスト。細やかに切り刻まれ、見事美しくできあがったスカイツリーや千手観音にみんな感動し、会場は拍手の渦に包まれました。

落語はマクラと本編、オチで構成され、マクラと呼ばれる部分は演じる落語の演目に関連した話をします。今回、落語家の師匠たちは中学生向けのマクラを披露。生徒たちはその話のおもしろさに大笑いしながら、ひとりでも



もの人物を演じ分け、扇と手ぬぐいだけでさまざまな物をその場に登場させる所作のひとつひとつに感激。巧みな話術に圧倒され、知らぬ間に古典の世界へと引き込まれました。

生徒たちはみな、この鑑賞会を通して伝統芸能である落語の「ことばの芸術」を敏感に感じ取り、その奥深さを実感しました。

新聞で社会を見る目を養うNIE指定校に

金城学院は2011年度から2年間、NIE(教育に新聞を)の実践指定校となりました。

NIEとは教育界と新聞界が協力し、社会性豊かな青少年を育み、活字文化と民主主義の発展などを目的に全国で展開する試みです。以前から社会の授業などで新聞記事を用いることは多くありましたが、今回指定校になったことでより組織的・系統的に新聞の活用を行います。

特に中学3年生の公民の分野では政治や経

済、国際問題など、教科書の記述のみではわからない実際の社会の動きを新聞から掴むことができます。また生徒の関心度が高い裁判員制度や死刑制度については、新聞紙上で報道された裁判の例を読んで自らを「裁く立場」に置いて真剣に考える生徒もみられます。

さらに学期に数回「新聞切り抜きレポート」も行います。これは1週間分の記事の中から関心のあるものを選び、要約と意見をまとめてみんなの前で発表する試みです。同じ記事を選ん

でも、自分とは異なる意見を知ることは生徒たちにとって大変勉強になります。このレポート発表の様子については、中日新聞紙上でも紹介されました。

新聞はまさに「第2の教科書」です。膨大な情報をパソコンで簡単に検索できる今だからこそ、新聞を広げて丁寧に活字を追い、自分の頭で考えることが大切です。生徒たちはこうした地道な活動を続け、より生きた情報を自分のものにするべく日々頑張っています。

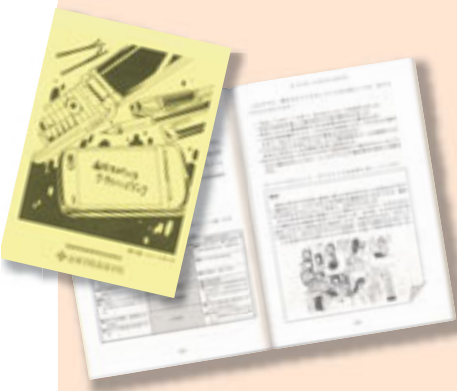
中学・高校PTAが ケータイ研修会を実施

～ケータイの賢い管理責任者となるために～

2011年11月29日、中学校白百合館1階多目的ホールで中学・高校PTA41名が参加し、中学校PTA第4回PTA講座としての研修会を開催。「高校生がつくるケータイハンドブック第3版」を読む読書会形式で実施。中学1年生の保護者

が不安と疑問を抱えているという状況を踏まえ、テキストの要約と質疑応答や班単位の井戸端会議の実施から家庭でのケータイルール5ヶ条の作成、班単位の発表と全体討議が行われました。研修会後のアンケートでは、「ケータイについての知識が増えた」「子どものケータイの悩みが減った」「楽しかった」「不安が解消できた」などの声が寄せられ、さらに「買い与えた親の責任としてきちんとチェックしたい」「子どもとの信頼関係の大切さを痛感した」などの貴重な意見もあり、有意義な会となりました。

ケータイについて生徒や保護者が意識的に学ぶことで、ケータイに対して慎ましく賢明な態度を形成することができますと考えられます。2012年4月にはハンドブックの第4版も完成しました。次回も継続開催いたしますので、ぜひご参加ください。



2011年度卒業生の進路状況

金城学院大学へは185名が進学
外部受験では地元国公立大や
慶応義塾大など多数合格

今年度の金城学院大学への進学者数は、内部推薦者160名に一般推薦・受験での進学者25名を加えて計185名(卒業生全体の54.6%)で、内部推薦での生徒は、全員が第一希望の学科に進学をすることができました。

外部受験コースでは、愛知県立芸術大、愛知教育大、名古屋市立大などの地元国公立大学をはじめ、一部浪人も加えると理系(Ⅲコース)では医学部6名、歯学部18名(うち愛知学院大歯学部10名)など医・歯・薬・看護系の進学者が目立ちました。

文系では慶応義塾大8名を始め、早稲田大、上智大、青山学院大11名、立教大4名、学習院大4名、同志社大9名、立命館大18名、南山大44名など、難関校にも多くの合格者を出すことができました。また「関西学院大学との協定校推薦制度」を利用し、今年度も12名の生徒が推薦され、関西学院大学の各学部へ進学をしています。卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。

(進学者実数)

国公立大	9	専修・各種学校	1
私立大	116	就職	0
金城学院大	185	進学準備	25
国公立短期大	0	その他(留学)	0
私立短期大	3	卒業生総数	339

音楽を支える文化を学ぶプログラムも新設 来春、文学部音楽芸術学科が誕生

2013年4月、文学部に音楽芸術学科が誕生します。人間科学部芸術・芸術療法学科を基礎に設置されるもので、音楽芸術学科では、音楽技術の向上はもちろんのこと、西洋音楽を生み出したヨーロッパの芸術や文化を広く学び、豊かな表現力を養います。音楽芸術学科を文学部に設置する理由も、この点にあります。

これまでではピアノと声楽だけでしたが、新たに管楽器を加え3つのコースを設置します。一層幅広く、高校生の期待に応えることができます。

音楽芸術学科のカリキュラムのポイントは3つあります。第1に、充実した個人レッスン、第2に、演奏を支える芸術性や教養を培う「文学部リベラルアーツ科目群」、第3に、進路に応じた実践力を養うための3つの専門プログラムです。

個人レッスンは、国内外で活躍する一流の指導者が手厚く指導します。週1回45分の個人レッスンの授業のほか、特別公開レッスンやプロのバイオリニストとアンサンブルをしながら指導を受けるピアノアンサンブルなど多彩な授業で、演奏技術の向上をめざします。

「文学部リベラルアーツ科目群」では、幅広くヨーロッパの文化や歴史を学び、楽曲を解釈する基盤をつくります。音楽芸術学科の準備



馬場マサヨ教授

を進めている馬場マサヨ先生は「音楽は美術や文学と密接な関連を持っています。例えば、ピアノソナタ17番の解釈を尋ねる弟子に、ベートーヴェンはシェイクスピアの『テンペスト』を読むように答えたと言われています。文学や美術を学ぶことで楽曲に対する理解が深まり、豊かな表現につながるのです。楽曲の生み出された時代を知ること、演奏の芸術性を高めることができます」と話します。

また、リベラルアーツ科目群には音楽鑑賞や美術鑑賞の授業もあります。「鑑賞は一人でもできますが、鑑賞の質を高めるには専門家の手助けが必要です。授業を通して芸術を深く鑑賞する能力を育て芸術性を磨いてほしいと思っています。コンサートや展覧会に出かけ、本物に触れる機会も計画しています。リベラルアーツ科目群は文学部の各学科が用意するのですが、音楽芸術学科が加わることで芸術性の厚みが増すと、文学部の先生方にも期待していただいています」と馬場先生。

卒業後の進路に応じた実践力を養うための3つの専門プログラム（「演奏家育成プログラム」「ピアノ指導者育成プログラム」「音楽教員育成プログラム」）があることも音楽芸術学科のカリキュラムの大きな特徴です。

いくつかの授業を紹介すると、「演奏家育成プログラム」の特別レッスンは、専任教員がそれぞれの専門性を活かして個々の学生を指導する授業です。複数の教員による個人指導は一般の音楽大学ではあまり見られないことですが、学生の力を伸ばすためには必要なことです。「ピアノ指導者育成プログラム」には、ヤマハやカワイのグレード取得を支援する授業がありますし、ピアノ教室で実習する授業もあ



ります。「音楽教員育成プログラム」には合唱指導法や吹奏楽指導法の授業があります。中学や高校では合唱や吹奏楽を指導する力量が教師に求められるからです。

2011年度は、セントラル愛知交響楽団との提携により、プロの交響楽団と学生ソリストによる「ピアノ協奏曲の祭典」が開催されました。そのねらいを馬場先生は次のように説明します。

「これまで、学生の演奏発表の場を増やすことに努力してきました。人前で演奏することが学生を鍛えるからですが、それより何より学生は演奏を発表したくて仕方がないんです。何とかこの願いを実現してあげたいと思い、様々な演奏会を企画しました。定期演奏会・卒業演奏会はもちろん、学内のミニコンサートや学生のリサイタルも行いました。『ピアノ協奏曲の祭典』はその延長にあります。プロのオーケストラをバックに演奏することは学生にとって得難い経験になります。音楽芸術学科では、さらに演奏の場を広げようといま色々計画しているんですよ。」

音楽芸術学科には、芸術・芸術療法学科10年の伝統が生きています。その伝統に、次代の音楽芸術をリードする斬新なカリキュラムが加わります。この新しい学科で、学生は音楽芸術の本当の素晴らしさを学び、感受性豊かな女性に成長して社会の様々な分野に羽ばたいていくことでしょう。

専門に応じた3つのコース	実践力を養うための3つのプログラム
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノコース 渾身の個人レッスンと金城ならではの授業科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏家育成プログラム 世界に通用する力を磨くハイレベルな指導
<ul style="list-style-type: none"> ・声楽コース 発音法やイタリア語入門とともに指揮法や合唱指導法なども充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ指導者育成プログラム 音楽教室講師に必要なグレード取得を支援
<ul style="list-style-type: none"> ・管楽器コース 専攻楽器のレッスンから指揮、編曲、指導者をめざす授業も用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽教員育成プログラム 音楽教員をめざすための豊富な科目群からトータルサポート

一瞬にして幼稚園時代に 懐かしく楽しい同窓会開催

幼稚園は3月、40回目の卒園生を送り出しました。毎年夏休みに小学1、2年生の同窓会を開催していますが、今年は小学3年生から高校1年生までの同窓会を、3月に2日間に分けて行いました。

10年間まったく会っていない卒業生も多く、果たして集まってくれるかどうかと保育者はみな開催準備をしつつ不安を抱いていました。しかし、そんな思いをよそに400人近い卒園生のうち、2日間合わせて250人も卒園生が来園。大変喜ばしいことでした。

会は礼拝から始まりました。礼拝は卒園式以来という子もいましたが、全員が「主の十字架と復活」についての話に静かに聞き入り、心をひとつにして「アーメン」と祈り合えたことに何より嬉しさを感じました。

その後は、お互いしばらく顔を見つめ合せて「あ、〇〇ちゃんだよな!」とあちこちから歓声が上がリ、一気に和やかなムードに。「あれ?園庭は走ってもなかなか突っ切れないと思って



いたらこんなに狭かったの?」「僕ってすいぶん先生を困らせたよね」など楽しい思い出を振り返り、大変盛り上がりました。

卒園してからは各々が違う道、違う苦楽を経験します。「どの様な時であっても幼稚園で出会った子どもたちが神様の恵みの中で力強く生きてほしい」と、職員一同祈りを新たにしました。

親子で手をつないで2kmを完歩 毎年恒例の親子遠足を開催

新年度の園児と保護者の親睦の機会として毎年行われる親子遠足。今年も5月の連休明けに小幡緑地公園東園まで2kmの道のりをみんな歩いて出かけました。

年長児、年中児は親子で歩くことが原則。年少児や小さいお子さんのいらっしゃる方は参加しやすいように、途中合流や現地集合もできるようにしています。

当日はさわやかな五月晴れ。子どもたちはお母さんやお父さんと手をつないで歌ったりおしゃべりをしながら目的地に向かって一生懸命

歩きました。普段から歩き慣れた親子は年齢に関係なく見事完歩。中には大人のほうか音を上げる姿も見られました。

「いつも車で通る見慣れた景色も歩きながら見ると、初めて見る風景のように見えて新鮮でした」「親子で手をつないで緑や風を感じながら歩いた時間が、とても愛おしく感じました」などさまざまな声も。現地では芝生の上でクラスごとの自己紹介ゲームやフープ送りなどを行い、楽しく親睦を深めました。またさわやかな風に吹かれながらおいしいお弁当やおやつ



を味わい、食後は公園でシッポ取りゲームや遊具で元気よく遊びました。

最後は手話をつけて覚えた讃美歌を歌い、恵みの一日を感謝して神様にお祈りし、帰路につきました。お母さんやお父さんと楽しく歩いた時間や友達と遊んだひとときは子どもたちの一生の宝物になることでしょう。



特色ある保育や子どもたちの様子を紹介 幼稚園ホームページをリニューアル

このたび、幼稚園のホームページをリニューアルしました。ホームページでは自然に囲まれた園庭園舎の魅力をはじめ、異年齢児でのクラス編成を行う『縦割り保育』や自発活動を大切にしている特色ある保育を紹介。子どもたちが生き

生きと輝き、のびのびと遊ぶ様子を感じ取っていただけることを願って作成しました。多くの皆様にご覧いただき、ご理解いただけると幸いです。

URL <http://www.kinjo-u.ac.jp/kindergarten/>

